

コニカミノルタグループ 2010年(平成22年)3月期 第2四半期決算説明会 主な質問と回答

日時: 2009年10月29日(木)16:30~17:30
場所: 東京ステーションコンファレンス「サピアホール」

<ご留意事項>

この資料は、決算説明会にご出席になれなかった方々の便宜のため、参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。
また、この資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。

■ 業績全般について

- Q: グループ全体での固定費削減効果(対前年比)が当初計画に対し40億円ほど超過達成の370億円になるとの事ですが、その内容について教えてください。
- A: 見直し後の固定費削減効果は上期の220億円に加え、下期では150億円を見込んでいます。情報機器事業では米国本社と昨年買収したダンカ社の管理間接部門を中心とした組織再編を当初計画を前倒してこの上期に完了しました。また昨年度第3四半期以降に需要が大幅減少したオプト事業では生産拠点再編および人員の適正化施策を実施しました。特に第2四半期からは市況回復に伴う主要製品の生産量が増加していますが、事業構造改革により固定費の増加は限定的となっています。研究開発費や設備投資も計画を鋭意精査し、取捨選択を徹底する事で当初計画以上の削減を見込んでいます。
- Q: 上記固定費削減とは別に、計画に織り込まれていない部分で更なるコスト削減を実施されるようですが、その内容についても教えてください。
- A: グループ横断での調達コスト削減、定常的なIT投資の抑制、事業の枠を超えた物流拠点の統廃合などにより、更なる事業構造の改善に向けた取り組みを開始しています。これらの施策による効果は主に来年度以降で顕在化する見込みですが、この下半期でも即効性のあるものから優先的に取り組んでいます。但し今回の修正公表値にはこれらの改善効果は織り込んでいません。

■ 情報機器事業関連

- Q: 第2四半期では収益性が大幅に改善しましたが、その背景および第3四半期以降の更なる改善について教えてください。
- A: 第1四半期を底として、第2四半期では旧製品の販売プロモーションや経費削減施策などが奏功し大幅に収益性が改善しました。第3四半期以降は新製品による競争力強化およびコストダウン効果による更なる収益性改善を徹底したいと考えています。
- Q: プロダクションプリントの事業環境について教えてください。
- A: 市場環境はオフィス同様、昨年度後半からの顧客の投資冷え込みにより厳しい状況が続いており、特に商業印刷向けが低調でした。下期も同様の状況が想定されますが、積極的に現行製品の販売拡大施策を実施し、来年度に予定している新製品展開に繋げていきたいと考えています。

■ オプト事業関連

- Q: TACフィルム(液晶偏向板用保護フィルム)の下期計画では第4四半期に数量調整を想定されているのでしょうか。
- A: 足元では堅調な推移をしておりますが、第4四半期は年末商戦後ということもあり顧客の在庫調整による影響を織り込んでいます。
- Q: VA-TAC(視野角拡大フィルム)領域では競争が激化しているようですが、下期以降シェア状況に変化は起きるのでしょうか。
- A: 当社製品は生産能力、品質、コスト何れにおいても競争優位性があり、市場における大きなポジションの変化が起こるという認識はしていません。来年度は新領域への参入や既存製品の販路拡大により更なる事業規模の拡大を目指したいと考えています。
- Q: 下期のBD(ブルーレイ用)光ピックアップレンズは当初計画より下方修正されているようですが、その背景について教えてください。
- A: ゲーム用途や民生機器向けの受注は第2四半期より好調に推移しました。一方でPC用途が景況悪化を背景に顧客側での搭載拡大が遅れ、当初計画を大幅に下回りました。この第2四半期の状況を受けて第3四半期以降も同様の傾向が続くものと想定し、PC向けの販売計画を見直しました。

以上